



志友会報

802-0985 北九州市小倉南区志井6丁目11-13
(株)網武出版 093(962)7740 FAX093(961)8224
Eメール: saigo@skyblue.ocn.ne.jp

本紙の年間購読は本体3,000円+税です。

合気語録

今日の合気道界の現実

これは藤猛が、あの試合以来負けて、翌日からテレビのコマーシャルを引きずり降ろされた、あの無残さとは対象的な行動規範(判断、評価または行為)の掘るべき行動や秩序の基準)である。そして今の若者達は、ウエルター級の元世界チャンピオンの、藤猛の名前すら知らない者が多くなった。

熱血漢は、その裡に燃える魂の焔を見失うことがない。喩え、闘いを挑まれて、追撃され、忽ち返り討ちにあつても、あるいは、敗れてボロボロになつても、熱血漢で居る限り、その闘魂の火は消えることはない。一敗血に塗れて、更に立ち向かう。これこそ求道者が求めなければならぬ、武術探究の真髓なのである。そして繰り返し闘ううちに、闘い方を覚え、逆に一泡吹かせるような気魄で、再び魂と格闘を挑み始めるものである。古流剣術では「初太刀に総てを賭ける」という教えがあるが、それも最初の「太刀をしっかりと受け止める気魄があれば、むざむざとは斬られる事はないのだ。」

あるいは強烈な第一打に打たれても、それを堪えれば、次はこちらが仕掛ける番なのだ。熱血漢で、人体の構造と生理的弱点を熟知する修行者には、そういうした、したたかさがある。自分自身を鍛え、魂を腐らす事なく、突き詰めて行つたところに、死生観を超越した境目がある。

生を、死を、存在を、迷いを、苦悩を超越すれば、そこには「負けない境地」の別世界を見出すことが出来るのである。喩えればそれは、蛮人のように「闘魂」を剥き出しに、火の魂となつて猛然と立ち向かつて行つた、粗野の人にも酷似する行為が、やがて死生観を超えて、新たな世界の開化を見るのである。

西郷派大東流合気武術

この《合気》は極めて難解な技法である。その構築を考えて見ただけでも、気の遠くなるような習得の為の各段階に於ける各々の《修法》と《行法》がある。それがまた習得の為の修練法を複雑にする。

術とどのように関連しているか、その意図が理解できず、合気会植芝ファミリーに狐疑を示しているのが現実である。合気道を実践武術として考えた場合、いくら口で「他人と相対して強弱勝敗を争う格闘技で無い(次元が違う)と云いたいのだらうが」と逃げ口上を申し立てたところで説得力がなく、その真価が如何程のものか、格闘技修行者から合気道自体がそれほど高く評価されて無いのが現状のようだ。

肩関節を極める「手首や肘を取って投げる」タイミングに合わせて呼吸投げて投げる「相手の不注意の隙を突いて崩す」等の非現実的な、腰から上の上半身の技が中心である。

また大東流のように、相手を「肩の上に担ぎ上げる業」や「手足を同時に極めたり固める業」等の、本来の《御信用之手》に含まれていないものは、女性向きでなく、また危険(受身がとれない。脱臼の虞がある)という理由から省略、あるいは簡化された。昨今新たに付け加えられた「回転足払い」等は、武術への揺り戻しの結果、空手の廻し蹴りや、ムエタイの回転蹴りに依存させた技の一部に付け加えられたものと思われる。

争が克明に物語っているのである。そして日露戦争においても、この図式に当て嵌まるのである。弱小国が強大国の脅威に桶を突き、これと戦い、戦闘の何たるかを理解しない者は「無謀」と云う、浅はかな言葉で一蹴する。多くの唯物史観を掲げる歴史学者や、反戦主義者はこれに入る。

合気戦闘理論 その三

プロイセンの軍人だったクラウゼウィッツ(Karl von Clausewitz)すら「戦略(strategy)の第一条件は、大戦力をもって戦場に臨む事である」と明言している。

これは国力が100ある大國と、国力が10しか所持しない小國が対戦し、一戦ごとに大國は10の損害を出し、小國は5の損害を出したと

に二人で、八人は生き残ることになる。これは国力が100ある大國と、国力が10しか所持しない小國が対戦し、一戦ごとに大國は10の損害を出し、小國は5の損害を出したと

争が克明に物語っているのである。そして日露戦争においても、この図式に当て嵌まるのである。弱小国が強大国の脅威に桶を突き、これと戦い、戦闘の何たるかを理解しない者は「無謀」と云う、浅はかな言葉で一蹴する。多くの唯物史観を掲げる歴史学者や、反戦主義者はこれに入る。

戦場における戦力二乗の法則とそれを覆えず戦術公理では、何故大兵力に拘わるのか。それは「戦力二乗(自乗)の法則」があるからだ。そしてナポレオンが言う「勝利は大兵に在り」という確言があるから

例えば、同等の能力・性能を有する兵器を所持する両軍が居た場合、それを「十対六」の割合で対戦すれば、「六」しか所持しない方の軍隊は、「十」を所持する軍隊に負けてしまふ事は誰にでも分かる。

第二次世界大戦時、日・独・伊の提携する強大なワイルド・パワーを、無条件降伏させたアメリカも、実は、開戦当時は、兵力においては圧倒的に劣っていた。昭和十六年当時の太平洋戦争開戦時には、日本とアメリカの海軍力の優劣は、圧倒的に日本が勝っていた。それなのに三年八月のこの戦争は、最終的に日本を無条件降伏へと追い込んだ。

太平洋戦争は、第二次世界大戦のうち、主として東南アジアおよび太平洋方面における日本と、アメリカ、イギリス、オランダ、中国、オーストラリア等の連合国軍との戦争である。また、十五年戦争の第三段階で、中国戦線をも含む戦争を言う。



すると、小國は五の損害であるの、大國に比べれば損は半分である。一見小國が大勝利したように錯覚するが、これで二回戦を戦った場合、その国力比率は「80対0」になってしまい、小國はこの時点で全滅したことになる。

奴隷化は亡国である。これは強大國の威圧に屈せず、領土や資源を提供しなかつたらどうなるか。この事は、朝鮮戦争やベトナム戦争

の要を失ってしまった。また大東流のように、相手を「肩の上に担ぎ上げる業」や「手足を同時に極めたり固める業」等の、本来の《御信用之手》に含まれていないものは、女性向きでなく、また危険(受身がとれない。脱臼の虞がある)という理由から省略、あるいは簡化された。昨今新たに付け加えられた「回転足払い」等は、武術への揺り戻しの結果、空手の廻し蹴りや、ムエタイの回転蹴りに依存させた技の一部に付け加えられたものと思われる。

西郷派大東流合気武術 名古屋支部道場

稽古日: 毎週日曜 午前10時~12時
道場所在地: 名古屋市中川区露橋2-14-1 露橋スポーツセンター内 柔道場
道場長: 嶋田嘉人(参段・正指導員)



西郷派大東流合気武術 宗像赤間支部道場

稽古日: 毎週水曜 午後7時~8時半
道場所在地: 宗像市大字稲元654番地 宗像市民体育館内 体育室C(柔道場)
道場長: 曾川竜磨(参段・准指導員)

